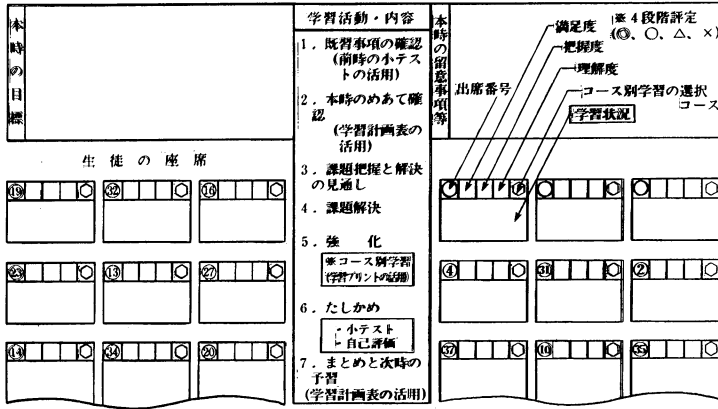


資料2 座席式指導案の形式と基本的指導過程



にした。
この結果は、「できる人はより力がつくし、できない人はやり直しがきく、みんないっしょに学習していてわからないといっているよりはいいと思う。個人の理解力が深まるのも一つの利点だと思う。(単元終了後の生徒の感想文より)」というように、個人差に応じた学習方法・形態としてかなり有効なもので、しかも自ら選択した課題を根気強く考えて解決しようとする生徒が多く見られ、今後の授業の在り方に

資料3 事前・事後テスト結果

問 番	区 分	正答率(%)		有効度指数	
		事 前	事 後		
1	(1)	上	54	100	100
		中	61	100	100
	(2)	上	45	81	65
		中	9	100	100
	(3)	上	9	100	100
		中	38	100	100
		下	18	81	76
		下	9	7	72
2	(1)	上	72	100	100
		中	46	92	85
	(2)	上	27	72	61
		中	45	100	100
	(3)	上	23	61	49
		中	9	36	29
		下	36	100	100
		下	23	92	89
5	(1)	上	0	45	45
		中	72	100	100
	(2)	上	30	100	100
		中	9	45	39
	(3)	上	63	100	100
		中	23	92	89
		下	9	63	59
		下	18	7	72
平均	(1)	上	18	7	49
		中	9	54	49
	(2)	上	0	100	100
		中	0	84	92
	(3)	上	0	54	63
		中	0	100	100
		下	0	84	84
		下	0	45	60
平	上	23	97	96	
	中	14	86	83	
下	8	56	52		

(2) 座席式指導案による展開
個に応じたきめ細かな指導をす

一つの方向を見出すことができた。
3 実態把握の工夫
(1) 診断的評価と自己評価
個に応じたきめ細かな指導を実現す
るためには、生徒一人一人の学習状況
などを的確に把握しなければならぬ。
また、指導の成果を絶えず教師自身
も認識し指導法の改善を図りながら毎
時間の指導に努めなければならぬ。
そこで、毎時間機会をとらえて診断的
評価テストを実施した。また、生徒に
も自己評価をさせることによって、指
導の成果を明らかにし、これらの
結果を反省しながら、指導法など
の改善に努めた。

この結果、生徒一人一人の学習
状況が把握でき、指導の成果も明
らかにすることができた。また、
追指導も容易に行うことができた
ようになった。

この指導案に基づいて授業を実践し
た結果、教師のはたらきかけが能率的
に正確に行えるようになった。すなわ
ち、生徒が「見える」ようになったこ
とが大きな成果である。また、「でき
た」「わかった」という喜びを多くの
生徒に味わわせることができ、学習に
おける生徒の基本的欲求に十分に
応えることができたと思われる。

るためには的確な実態の把握が必要で
ある。そこで、資料2にある座席式指
導案により授業を実践することにした。
これは毎時間、生徒一人一人の学習の
成果や思考の流れなどを記録し累積し
ていくことにより、より確かな実態の
把握とそれに応じた指導を容易に行え
るように考えた指導案である。本時の
授業実施後に記録し、この記録をもと
にして次時の指導案を練り、コース別
学習の課題を作成するなど、個に応じ
た学習指導を展開する上でたいへん有
効なものとなった。

四、研究の成果と課題

本研究の成果は、資料3に有効度指
数によって明らかにされているとおり
である。表からいえるように、本研究
は基本を定着させるためには十分効果
的な研究であったと思う。特に上位、
中位グループにはその効果がよく表わ
れている。ただ下位グループについて
は効果がよく表われたとはいえず、今
後も改善し継続して研究に取り組んで
いきたいと思う。成果と課題について
は次のようにまとめることができる。

1 学習計画表を意図的に活用したこ
とにより、学習のめあても把握して
授業に臨む生徒が多くなり、課題追
究意欲や継続意欲を高めることがで
きた。しかし系統性をより具体的に
するなど、生徒が真に活用できるも
のに改善する必要がある。

2 コース別学習によって積極的に課
題を解決しようと学習に取り組む生
徒が多くなった。しかも個別化を十
分に図りながら個人差に応じた学習
指導を行うことができた。しかし、
実態に応じた課題内容をより深く研
究し作成する必要がある。

3 生徒一人一人の学習状況の的確な
把握とそれに応じた教師のきめ細か
なはたらきかけを行う上で座席式指
導案はその手だてとしてかなり有効
なものであった。今後は、より能率
的に活用できるものへ工夫改善して
いきたいと思う。